

宮城県地方税滞納整理機構通信

納めLINE

納めてください(標準語)
納めらいん(宮城の方言)
納めLINE(通信紙名)

機構活動状況

12月31日現在の機構の活動状況をお知らせします。括弧内は前年同期

- 引受件数及び税額
千百8件 16億5千2百万円
(9百69件 20億1千9百万円)
- 徴収済額及び徴収率
4億2千8百万円 25.9%
(2億6千6百万円 13.2%)
- 本税完納件数及び税額
百85件 2億3千2百万円
(95件 1億2千9百万円)
- 搜索 2百10件
- 差押件数 合計7百19件
- 動産 百40件
- 不動産 24件
- 普通自動車 17件
- 債権 5百38件

年間MVP大賞受賞

今般、地方税徴収対策室は年間MVP大賞(知事褒状)と総務部長賞を受賞しました。評価されたのは「メディアの活用を含めた機構独自の取

組み」です。御用納めに今野総務部長から、年明けの御用始めには村井知事から各賞を拝受しました。機構の様々な活動に協力して下さった市町村、県税事務所、県庁内外のみなさまには、この場を借りて厚く御礼申し上げます。授賞を通して各職員



褒状が徴収対策室員に授与されました

平成21年4月に3年間を時限として、県内24市町村と県が連携し、任意団体として発足した当機構は、今年度は「正念場の2年目」と位置付け、全国平均よりはるかに高い徴収率25%を目標値として、職員一丸となつて努力して参りました。単なる滞納整理の推進ではなく、市町村や県税事務所・機構のスキルを共有し生活再建相談も含めた様々な案件に対処するための研修を実施

しました。

また、異なる分野から、改革派で先進的な施策を展開している県の橋本土木部長の講演会(「成功への情熱・私の挑戦・仕事を革新する」)も開催し、市町村、県税職員のほか、税務以外の職員も含めた多くの参加者を得て、プロフェッショナルな仕事への熱意を涵養してきたところでは、おかげさまで、平成22年12月末には、徴収率において悲願の25%を超えることができました。

さらに、今年度は、NHK、フジTV、TV朝日など全国ネットの番組やニュースの特集で取り上げてもありました。その際にはシナリオや映像、職員へのインタビューの随所に地方分権時代の重要な自主財源の確保という視点での滞納整理であることを強調し、納税者への説明責任と滞納者への「気づき」を促しました。これらの映像は、地方税徴収対策室長をはじめとする機構の職員が、納税組合や他課主催の徴収実務のセミナーなどからの依頼で講師を務める際に、プレゼンテーションで活用しています。

今回の受賞を励みに、機構がモットーとしている「滞納者との信頼関係」をベースにした丁寧かつ毅然とした滞納整理の手法をさらに進化させて滞納縮減に努めたいと思っております。関係者の皆様には今後ともご

平成22年度県内一斉インターネット公売実施結果

県内一斉インターネット公売
落札総額は1千万円超

11月に実施した県内一斉インターネット公売については昨年度を大きく上回る結果となりました。今年度は機構以外の多賀城市、蔵王町、仙南地域広域事務組合も参加し27団体による一斉公売となり、詳細は左記のとおりです。

参加団体数 (機構24自治体及び多賀城市、蔵王町、仙南地域広域事務組合)	27団体
参加者数	978人
会場数	9,124件
来場件数	524件、
申込品数	落札額6,868,798円
見込品数	9件、
下参品数	落札額3,848,000円
公売品数	落札額10,716,798円
動産落札額	合計
不動産落札額	5,635,407円
(昨年度)	

裏面につづく

今年度は昨年のハーレーダビッドソンのような目玉出品物はなかったが、下見会の来場者数を始めとして各項目の数値は向上しており、テレビ等のマスコミを活用した広報活動により、機構の活動が一般に浸透した結果であると考えられます。

また、落札額合計は1千万を超えました。金額の多寡にかかわらずこの取組を通じて捜索や動産の差押え等の現実を広く周知することが可能であるため、今後も県内一斉インターネット公売を継続していくべきものであると考えています。



富谷町ではガラス製品の
高額落札が相次ぎました。

大人の自由研究

小中学生の時に経験した夏休みの「自由研究」になぞらえて、既存の概念にとらわれないテーマ設定で、読者の皆様からのご意見やご要望も取り入れながら、考えていきたいと思えます。

第二回テーマ 機構ウェイ 今、徴税吏員に求められているのは「人間力」?

宮城県地方税滞納整理機構
事務局長 丹野 修

ある日の滞納整理機構事務局内で、「徴収は『人間力』だよな!」という会話が聞こえてきた。「人間力」って、人間のチカラ?

数年前、政府の諮問会議において、若者就業問題を論じる文脈で「人間力」という言葉が登場した。内閣府の委員会によれば、「人間力とは、社会を構成し運営するとともに、自律した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義している。

また、ある本によれば、人間力とは、ただ単に必要な小手先の技術やスキルを指しているのではなく、「その人の生まれ持った性格や資質を基礎とし、学習や仕事で培った能力や経験を加味することでの幅を増し、さらにそれらの知見を総動員して事に当たることによって発現される対人影響力」と解説している。内閣府の定義は、広く原則的な意味合いであるが、後者の解説による「対人影響力」は説得力がある。

人間力を「対人影響力」と解すると、具体的には、コミュニケーション力、問題解決力、決断力などが想定される。まさに、これらのチカラ

は、滞納整理、納税折衝には、欠かせないものであり、「徴収は『人間力』だよな!」は名言であると思う。さすが、機構のみなさんである。

これまで、徴収業務は、地方税法、国税徴収法、民法など関係法令のマスターが最も必要であり、最重要と言われてきた。また、滞納処分関係の規定を適切に執行し、差押え、換価し、税に充当していくところが、徴税吏員の仕事とも言われてきた。

これらのことは、時代が変わっても、基本中の基本原理であると思う。しかし、このスキルだけで、滞納事案が解決し、滞納者が「タックスペイヤ」に変わるだろうか。

機構で担当している事案を見てみると、その多くは、換価価値のある財産を所有している滞納者は少なく、法律の処分を適用することをもって、即、解決に至るものは少ない。ほとんどの滞納者は、多重債務、失業、事業不振、病气、家庭不和などを原因として、税の滞納が発生している。また、現在においても、これらの問題の解決の見通しもない状態である。

機構の納税相談は、このような滞納者と滞納を解決する方策を協議する場である。したがって、滞納者の生活再建を進めながら、滞納を解決する処方箋を一緒につくる場である。このため、徴税吏員には、法に

基づく滞納処分又は納税緩和措置を適切に執行していくとともに、滞納者自身が生活再建を図り、滞納を解決しようとする強い意志の形成を促進することが求められる。

「徴収は『人間力』だよな!」、このことを機構の滞納整理の原則とし、「トヨタウェイ」に倣って「機構ウェイ」としてはどうだろうか。

滞納整理機構キャラクター



納馬(のうま) くん

ご意見ご要望は下記までお願いします

宮城県地方税滞納整理機構
(宮城県総務部地方税徴収対策室内)

〒980-8570
宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
電話022-211-6681/FAX022-211-2289
E-mail:choutai@pref.miyagi.jp
http://www.pref.miyagi.jp/choutai/